

# 7月 は 同和問題啓発 強調月間です。



差別のない明るい社会を築くため、同和問題の解決に向けて、さまざまな取り組みを行います。

同和問題は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、日本国民の一部の人々が、長い間、生活のさまざまな場面で差別を受けてきた問題で、今もなお、現代社会に残るわが国固有の人権問題です。

日本国憲法では「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」(第14条)と法の下に平等をうたっています。また、国や地方公共団体では、この問題の解決を図るため、教育・啓発・地域改善対策などを行ってきました。しかしながら、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の発生が依然として後を絶ちません。近年では、高度

情報化社会の進展に伴い、個人の名誉やプライバシーが侵害されることや、差別を助長する表現や有害な情報が掲載されるなど、人権問題もますます多様化、複雑化してきています。人権が尊重される社会づくりを目指し、同和問題をはじめとするさまざまな差別を解決するためには、「無関心」「無理解」であってはなりません。人権問題についての認識を深め、「お互いの個性を認める」「豊かな心を持ち、一人ひとりが自分自身の問題として考え、真剣に取り組んでいくことが大切です。直方市では、一人ひとりの人権を尊重し、誰もが幸せに、そして人間らしく生きられる社会を実現するための取り組みを行っています。

## 同和問題講演会

同和問題に対する正しい認識と理解を深めるため、県と市がそれぞれ講演会を開きます。

### ◎県主催

とき 7月20日(土)

午後1時30分～3時05分

ところ クローバープラザ大ホール(春日市)

講演 「情報化社会と部落差別解消推進法」

講師 谷川 雅彦さん

(一般社団法人

部落解放・人権研究所 所長

### ◎直方市・直方市教育委員会主催

とき 7月24日(水) 午後2時～3時30分

ところ ユニシティのおがた

講演 「差別のない明るい社会をつくるために」

講師 中島 一磨さん

(福岡県人権・同和問題啓発

研修講師団講師)

## 人権問題に関するビデオ・DVDや 視聴覚機材の貸し出し

市民・人権同和対策課では、無料で人権問題に関するビデオやDVDおよび視聴覚機材の貸し出しをしています。グループやご家庭での学習に活用し、人権意識を高めましょう。

申し込み・問い合わせ 市民・人権同和対策課

(TEL 25・2105)

## 人権標語と作文

市内の小・中学校の児童・生徒から、人権についての標語と作文を募集しました。今年は、標語73点、作文14点の応募の中から次のとおり入選作品が決まりました。児童・生徒が自分自身の心にある「人権」についてありのまま表現したものです。これらの標語は、市内の小・中学校と公共の施設、合わせて25カ所に啓発標語看板として、7月から2カ月間掲示します。

### 令和元年度 人権標語

考えよう

きみが言ってるその言葉

直方南小6年

松尾佳樹

友だちが

えがおになったあいさつで

直方北小6年

下田佳琳

差別のない

みんなが笑顔な世の中に

直方西小6年

白石大空

友達が

聞いてうれしい言葉かけ

新入小6年

森田兜真

人権は

みんなの笑顔で守るんだ

感田小6年

沼口美玖

あいさつを  
交わしてつなぐ友の絆  
上頓野小6年 小林美希

えがおの輪  
広げて広げてつなげよう  
下境小6年 高田莞太郎

守ろうよ  
誰もがもってるその笑顔  
福地小6年 秋吉冬磨

ぼくがいる  
だから安心していいよ  
中泉小6年 吉田瑛斗

人間は  
全員平等 みなちがう  
植木小6年 小野吉晟

やさしさは  
やがてみんなを笑顔にするよ  
直方東小6年 小笹亜美

いま その手  
勇気を出して 差し出して  
直方一中3年 宮園耀

顔あげて  
周りを見れば友がいる  
直方二中3年 山田龍之介

お互いを  
知ってうまれる思いやり  
直方三中2年 森本夢巴

「大丈夫」  
勇気を出して声に出せ  
植木中2年 名嶋和風

ありがとう  
心に残る あたたかさ  
直方南小5年 芹沢紗菜

「だいじょうぶ？」  
やさしい一言大切に  
直方西小5年 池田航太郎

ぼくと君は  
ちがいがああるよとうぜんさ  
感田小5年 高尾一輝

あなたのね  
えがおはわたしのたからもの  
下境小5年 吉留優梨

いじめなし  
人の気持ちがかかるまち  
福地小6年 吉田悠聖

命には  
家族の気持ち つまっている  
直方一中1年 国元真凜

その想い  
言葉にしなきゃ届かない  
直方二中2年 坂本大樹

大丈夫  
一人じゃないよ 僕がいる  
直方二中2年 岩下桜樺

個性はね  
一人一人の宝物  
直方三中3年 久坂萌絵

さしのべよう  
勇気優しさ 思いやり  
植木中1年 石橋諒一

## 権文 人作

### やさしい社会へ

植木中学校 三年 小野原 みなみ

先日、私はニュースで話題となっていた東京大学の入学式で述べられた祝辞を読みました。それを読んで私は、生まれもった性別を理由に、頑張りが報われない人が大勢いるんだと改めて感じました。なぜ性別による差別はなくならないのでしょうか。私は女性がおかれている現状について、いくつか調べてみました。

例えば、選挙で女性が立候補した際に、「家事や子どもの世話はどうするのか。」という質問が投げかけられたりすることについてです。男性が立候補しても、このようなことは言われないのではないのでしょうか。

また、育児休業は男性も利用できるようになっていますが、取得率は低く、十分な体制が整っていないことが現状です。女性が外で働いていても、家事は女性がしていることが多いようです。それに加え、高齢者の介護や育児などの負担も抱えることになります。日本では法の上では男女平等だと言われていますが、これらのことから、実生活においては性別を理由にした差別が根強く残っていることがわかって思えます。

最初に挙げた祝辞の中に、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんのお父さんの言葉が紹介されています。「どうやって娘を育てたのですか。」という質問に対し、「娘の翼を折らないようにしてきた。」と答えたそうです。性別関係なく、多くの子どもたちは知らず知らずのうちに、翼を折られ、自由に羽ばたくことができません。折られた翼を支えてあげられるような社会になるように願っています。私もまた、近い将来、社会に出ていく女性の一人として、強がらず、自分の弱さを認めて、人と支えあって生きていける人になりたいと思います。